

演習問題 1 :量子力学における対称性 (2020) 初貝, 吉田(恒)

問題 1. 量子力学におけるユニタリ変換 U に関して考えよう。ただし状態をブラケット記法で $|\psi\rangle$ と書き、状態は $|\psi'\rangle = U|\psi\rangle$ と変換されるとせよ。

- (1) ユニタリ変換とは何か述べよ。
- (2) $U_\lambda = e^{i\lambda G/\hbar}$ (λ は実) と書いたとき、 G がエルミートとなることを示せ。 $(G$ は変換の母関数と呼ばれる)
- (3) 波動関数の変換 $|\psi\rangle \rightarrow |\psi'\rangle$ に対して (エルミート演算子に対応する) 物理量 \mathcal{O} の変換 $\mathcal{O} \rightarrow \mathcal{O}'$ を物理量の観測値が元の系と'系とで、不変であるとして定めよう。これから \mathcal{O} と \mathcal{O}' との関係を導け。
- (4) $\lambda = \delta\lambda$ を無限小の物理量とした時 (無限小変換) $\delta\mathcal{O} = \mathcal{O}' - \mathcal{O} = i\delta\lambda[G, \mathcal{O}]/\hbar$ を $\delta\lambda$ の最低次で導け。よって、物理量 \mathcal{O} の不変性は $[G, \mathcal{O}] = 0$ と書ける。
- (5) 時刻 t における任意の物理量 \mathcal{O} の期待値を $\langle \mathcal{O} \rangle_t$ としたとき $\frac{d}{dt}\langle \mathcal{O} \rangle_t = -i\hbar^{-1}[\mathcal{O}, H]$ を導け。シュレディンガー方程式 $i\hbar\frac{d}{dt}|\psi\rangle = H|\psi\rangle$ を用いよ。
- (6) ハミルトニアン H が上記の無限小変換 $U_{\delta\lambda}$ で不変な時、変換の母関数 G は保存量となることを示せ。

問題 2. 1次元の波動関数 $\psi(x)$ に関する並進操作 $T_a : x \rightarrow x' = x + a$ を考える。

- (1) 波動関数の並進を $T_a : \psi \rightarrow \psi' = U_a\psi$, $\psi(x) = \psi'(x') = \psi'(x + a)$ とするとき、 $y = \psi(x)$ のグラフと $y = \psi'(x)$ のグラフとを実数の適当な ψ を仮定して $x - y$ 平面上に書け。
- (2) $U_a = e^{-a\partial_x}$ であることを示せ。
- (3) U_a を運動量 $p_x = -i\hbar\partial_x$ を用いてあらわせ。
- (4) 並進の母関数を求めよ。
- (5) p_a がエルミートであることを仮定して U_a がユニタリであることを示せ。
- (6) 無限小並進 $U_{\delta a}$ に対して $\delta x = -\delta a$ を示せ。

次に3次元の無限小並進 $U_{\delta a} = e^{-i\delta a \cdot \mathbf{p}/\hbar}$ について考えよう。 $(\mathbf{p} = -i\hbar\nabla)$

- (7) 並進の母関数を求めよ。
- (8) $\delta\mathbf{r} = U_{\delta a}\mathbf{r}U_{\delta a}^{-1} - \mathbf{r}$ を ($U_{\delta a}$ の最低次で) 求めよ。
- (9) $\delta\mathbf{p} = U_{\delta a}\mathbf{p}U_{\delta a}^{-1} - \mathbf{p}$ を ($U_{\delta a}$ の最低次で) 求めよ。
- (10) 質量 m の自由粒子のハミルトニアン $H = \frac{\mathbf{p}^2}{2m}$ に対して $\delta H = U_{\delta a}HU_{\delta a}^{-1} - H$ を ($U_{\delta a}$ の最低次で) 求めよ。
- (11) 自由粒子に対する運動量保存則を対称性との関連で述べよ。

問題 3. ポテンシャル力 $V(\mathbf{r})$ 下の質点のハミルトニアンを $H = \frac{\mathbf{p}^2}{2m} + V(\mathbf{r})$ と書き, その時間推進を考えよう。

- (1) $\psi(t + \delta\tau) = U_{\delta\tau}\psi(t)$ となる $U_{\delta\tau}$ を求め, 時間推進の母関数を得よ。
- (2) この系のエネルギー保存則を対称性との関連で述べよ。
- (3) $V(\mathbf{r}) = V(r)$ ($r = |\mathbf{r}|$) の時, 前問にはない保存則があれば, その理由とともに述べよ。

問題 4. 回転操作 $\mathbf{r} \rightarrow \mathbf{r}' = R\mathbf{r}$ について考えよう。ただし実 3 行 3 列の行列 R は単位操作 $R = 1$ から連続に変化するものとする。

- (1) $|\mathbf{r}| = |\mathbf{r}'|$ から R が直交行列であることを示せ。
- (2) $\det R = 1$ を示せ。
- (3) 無限小変換 $R = 1 + \delta R$ に対して δR が反対称行列であることを示せ。
- (4) $(\delta R)_{ij} = -\epsilon_{ijk}\delta\omega_k$ と書いて $\mathbf{r}' - \mathbf{r} = \delta\boldsymbol{\omega} \times \mathbf{r}$ を導け。
- (5) この関係式の幾何学的意味を説明せよ。
- (6) $\delta\psi = \psi'(\mathbf{r}) - \psi(\mathbf{r}) = -\delta\boldsymbol{\omega} \cdot (\mathbf{r} \times \nabla)\psi$ を導け。
- (7) 無限小の空間回転を $\psi' = U_{\delta\boldsymbol{\omega}}\psi$ と書いたとき $U_{\delta\boldsymbol{\omega}} = e^{-i\boldsymbol{\omega} \cdot \mathbf{L}/\hbar}$, $\mathbf{L} = \mathbf{r} \times \mathbf{p}$ となることを示せ。
- (8) 角運動量保存則を対称性との関連で述べよ。
- (9) z -軸周りの θ 回転の回転行列 $R_z(\theta)$ を以下の手続きで順に求める。 $\mathbf{r}' = R_z(\theta)\mathbf{r}$ である。
 - (9-i) $\tilde{\mathbf{r}} = (x, y, z)$, $\tilde{\mathbf{r}}' = (x', y', z')$ として $x = \text{Re } e^{i\phi}$, $y = \text{Im } e^{i\phi}$, $x' = \text{Re } e^{i(\phi+\theta)}$, $y' = \text{Im } e^{i(\phi+\theta)}$ となる。 R_z を求めよ。
 - (9-ii) $R_z(\delta\theta)$ を $\delta\theta$ の最低次まで展開し行列 δR を求めよ。
 - (9-iii) 対応するベクトル $\delta\boldsymbol{\omega}$ を求めよ。
 - (9-iv) 対応する無限小回転の母関数を求めよ。
- (10) 一般論に従い回転に対して物理量 \mathcal{O} は $\delta\mathcal{O} = -i\delta\omega_i[L_i, \mathcal{O}]/\hbar$ と変換する。ここで $L_i = (\mathbf{r} \times \mathbf{p})_i = \epsilon_{ijk}r_jp_k$ 。
 - (10-i) $[r_i, p_j]$ を求めよ。
 - (10-ii) $[L_i, r_j]$ を求め, $\delta\mathbf{r} = -\delta\boldsymbol{\omega} \times \mathbf{r}$ を示せ。
 - (10-iii) $[L_i, p_j]$ を求め, $\delta\mathbf{p} = -\delta\boldsymbol{\omega} \times \mathbf{p}$ を示せ。
 - (10-iv) $[L_i, L_j]$ を求め, $\delta\mathbf{L} = -\delta\boldsymbol{\omega} \times \mathbf{L}$ を示せ。
 - (10-v) 逆に $\delta\mathbf{V} = -\delta\boldsymbol{\omega} \times \mathbf{V}$ となる 3 成分の演算子 $\tilde{\mathbf{V}} = (V_x, V_y, V_z)$ (ベクトル演算子) に対して $[L_i, V_j] = i\hbar\epsilon_{ijk}V_k$ を示せ。
 - (10-vi) 2 つのベクトル演算子 \mathbf{A} , \mathbf{B} に対して $\delta(\mathbf{A} \cdot \mathbf{B}) = 0$ を示せ (スカラー演算子)。